

学校の先生へ

吃音症（どもり）について

吃音（きつおん）は、しゃべることばに連発（ぼ、ぼ、ぼ、ぼくは）、伸発（ぼーーくは）、難発（……ぼくは）などが起きて、滑らかに発話できないことを指し、100人に1人は吃音がある。2011年に吃音のあるイギリスの王ジョージ6世の映画『英国王のスピーチ』がアカデミー賞を受賞したことで有名になった。

吃音は、言語発達の盛んな2～4歳頃に発症するもので、原因はまだ特定されていない。吃音の治療法はまだ確立されていないが、吃音によるいじめなどがなければ、年齢を重ねるにつれ、自然と軽減していくものである。精神的な弱さが吃音の原因と誤解されることがあるが、先生が精神的に強くしようとしても治すことはできない。吃音は最初のことばで発生することがほとんどであり、2人以上で声を合わせる（斉読）や歌では、吃音は消失する。

	連発 (最初のことばを くりかえす)	難発 (最初のことばが出るのに 時間かかる)
苦手な場面	本読み、発表、劇、健康観察、 日直、号令、自己紹介	
得意な場面	友だちとの会話、得意な話をするとき	
困ること	真似される 笑われる	「早く言いなさい」とせかされる 答え・漢字がわからない誤解される 一生懸命話そうとするが声がでない
先生が できること	①吃音のからかいをやめさせる（少しの真似でも、傷つきます）。 クラスで吃音のからかいがあったら報告させる。 ②話すのに時間がかかっても待つ。 ③話し方のアドバイスをしない（ゆっくり、深呼吸して、落ち着いて、 など）→効果がなく、逆にプレッシャーになる。 ④本読み、号令などの対応を本人と話す。	

吃音の説明ロールプレイ

先生「○○くんは、ことばを繰り返したり、
つまったりすることがあるけど、それを
真似したり、からかわないように。
もしマネする人がいたら、先生まで教えてね」
児童「なんで真似してはいけないのですか？」
先生「わざととしている訳ではないから」
児童「わかりました」

先生の一言が

非常に効果があり、
子どもは助かります。

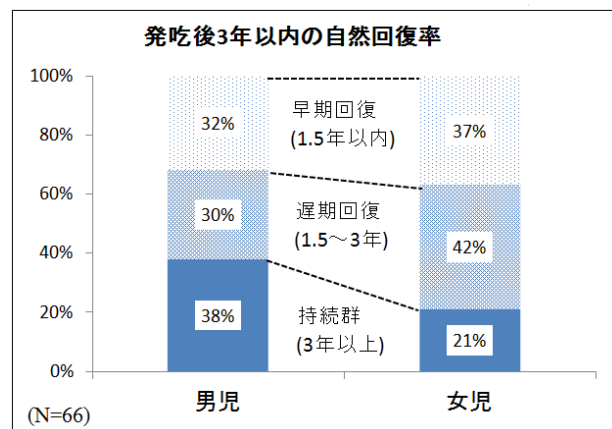
幼稚園・保育園の先生へ

吃音症（どもり）について

吃音（きつおん）は2～4歳に5%（20人に1人）の割合で発症するが、約4割の子が3歳児健診以降に発症する。そのため、幼稚園・保育園の先生が相談される機会が多いだろう。発症後4年で、74%の子が自然回復するが、吃音の家族歴がある子、男の子は回復する確率は減る。親の育児方法や園の接し方が発症の原因ではない。吃音は言語の発達過程で生じてしまうものであり、世界中同じ割合で発症しているのである。新学年、新学期には吃音の症状が一旦増えるが、時間とともに軽減することが多い。幼稚園・保育園の先生に一番してほしいのは、子どもたちへの吃音の説明や、吃音の真似している子がいたら止めさせてほしい。歌や2人で声を合わせると、どんな子でも吃音は消失する。

吃音の進展段階

	吃音症状	心理的な負担
第1層	・お、お、お、おかあさん（連発） ・お——かあさん（伸発）	小 ↓ 大
第2層	・……おかあさん（難発） ・顔や首に力が入る、手や足でタイミングを取る（随伴症状）	



先生ができること	①吃音のからかいをやめさせる（少しの真似でも、傷つく）。 クラスで吃音のからかいがあったら報告させる。 ②話すのに時間がかかっても待つ。 ③話し方のアドバイスをしない（ゆっくり、深呼吸して、落ち着いて、など）→効果がなく、逆にプレッシャーになる。 ④2人で声を合わせて話すと、吃音が消失することを知っておく。
----------	--

吃音の説明ロールプレイ

先生「○○くんは、ことばを繰り返したり、
つまったりすることがあるけど、それを
真似したり、からかわないように。
もし真似する人がいたら、先生まで教えてね」

幼児「なんで真似してはいけないのですか？」

先生「わざとやっている訳ではないから」

幼児「うん」とうなづいたら、ほめてあげる。

先生の一言が

非常に効果があり、
子どもは助かります。

3 歳児健診用

「ことばを繰り返す」ことに気づいた親御さんへ

吃音（きつおん：どもり）は2～4歳の間に、人口の5%（20人に1人）に発症する。3歳児健診のときは、約3%（約30人に1人）の割合で存在する。ことばの繰り返し（連発性吃音）、引き伸ばし（伸発性吃音）、始めの一音がなかなかでない（難発性吃音）の3種類がある。なめらかに話すことができない疾患と言われている。難発性吃音は3歳児健診のときは少ないが、時間がたつうちに生じていくものである。

下図は正常範囲と吃音の特徴を示す。明確に吃音とわかるのは、語頭の一語を繰り返したり、引き伸ばしたり、始めの一音がなかなかでないときである。

	正常範囲	吃音
	1歳半～6歳	2歳以降
特徴	あの、えーと、などを使う（挿入） ボ、でんしゃに乗りたい（言い直し） ボール、ボールで遊ぼう（語の繰り返し）が多い。	ボ、ボ、ボ、ボール（語頭の一語を繰り返す） おーーかあさん（引き伸ばし）が多い。 始めの一音がなかなか出ないこともある

しないでほしいこと

・話し方のアドバイスをする（ゆっくりと話して、落ち着いて、深呼吸して、など）

→早口のときに、どもる量が増える。したがって、ゆっくり話せばどもる量が減るのではないかと考え、ほとんどの親が「ゆっくり話さない」と話し方のアドバイスをしてしまうものである。しかし、発話の未熟な幼児には、ゆっくり話すことはできない。そのため、親の期待に応えられない自分に劣等感を感じる。吃音は親が悪いから発症するのではない。吃音の40%は急性（1～3日）に発症するものである。子どもがどもっていても、親が落ち着いて、ありのままのわが子を受け入れてほしい。

・どもったら言い直させる

→言い直させられ、どもらず言えると、言い直しが効果あるのではないかと勘違いする。しかし、言い直しにより、吃音が治ることはなく、逆にストレスを与える。

・子どもの話し方を真似する

→かわいい自分の子だから、どもってもかわいいと思う親はいる。しかし、わざととしているわけではないのに、真似をしてからかうことは、幼な心でも傷つく。大人になっても「真似してほしくなかった」と鮮明に覚えている人もいる。

吃音は治るの？

ことばの繰り返しが始まり、男児は3年で60%、女児は80%自然と治る。しかし、家族に吃音がある場合は、自然と治る確率が下がる。成人になっても吃音が持続する人が人口の1%（100人に1人）は存在する。その割合は、国や文化、人種が異なっても、ほぼ同じ割合である。吃音が残っても、周りの人の理解があれば、どんな職業にだって就くことができる。※吃音を急激に止める治療法はない。

もし、吃音が半年以上続いている場合は、このパンフレットをもらった保健所（福祉保健センター）、母子保健センターなどに問い合わせ、言語聴覚士に経過をみてもらうことをお勧めする。

出典：菊池良和『エビデンスに基づいた吃音支援入門』、学苑社

家族の方へ

吃音（どもり）とは

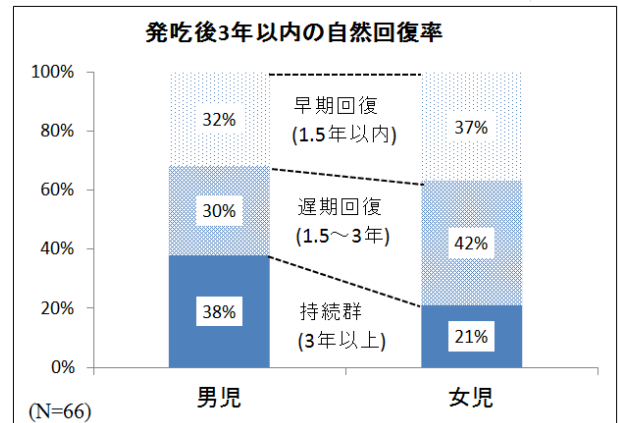
連発・伸発・難発のため、なめらかに話せないこと。
2～4歳頃にことばの発達の途中で5%に発症する。
どもるのは、ほとんどが最初のことばである。
歌を歌うときや、2人で声を合わせるとどもらない。
連発と伸発の吃音だけであれば、苦しくない。

吃音の進展段階

	吃音症状	心理的な負担
第1層	・お、お、お、おかあさん(連発) ・お——かあさん(伸発)	小 ↓ 大
第2層	・……おかあさん(難発) ・顔や首に力が入る、手や足で タイミングを取る(随伴症状)	

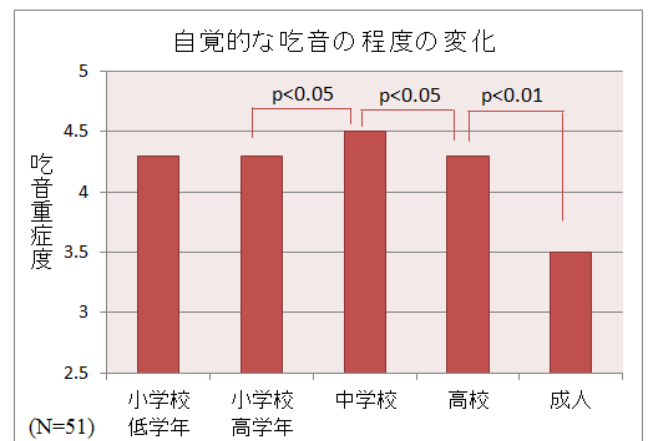
吃音は治るの？

男児は3年で6割、女児は3年で8割治癒（下図）



吃音が治らなかったら？

吃音には症状の波がある。どんなに吃音が重くなっても、話す意欲を失わなければ、また吃音は軽くなる。
成人になると、中学生をピークに、親も気づかない程度の吃音に軽減する人が多い（右図）。だから、吃音以外の支援をしていかなければならない。
吃音があっても、吃音がない人と同様の仕事に就くことができる（例：教師、医師、看護師、警察官、弁護士、公務員、営業職など）



ただ、とっさの一言がでないことは成人になっても残る人が多いので、継続的なサポートが必要である。

家族として何ができるのか？

しない	できること
・話し方のアドバイスをしない。 (ゆっくり話して、深呼吸して、落ち着いてなど) ・ことばの先取りをしない。 (待っているよ、の姿勢) ※親の9割は話し方のアドバイスをして、3割はことばの先取りや言い直しをしている。	・邪魔されない発話場面を確保する。 (1日5分、難しければことばを拾う) ・聞き上手になる。 (間を取る、交代交代に話す、おうむ返しなど) ・子どもが「ほめられている」と実感する回数を増やす。(お手伝い、「ありがとう」のことばなど)

これから起きること

本人からの吃音の質問	吃音のからかい
「なぜことばがつかえるの？」→背景に友達の同様な質問。 「うまく話せない」→必要あれば、専門家に相談。 「なぜ病院に行くの？」→「吃音があるから」と伝えてもいい。 吃音の本を手が届く所に置いておく。	大人の助けが一番必要。 自分でも言い返せるといい。 「あなたは悪くない」と伝えよう。

家族の方への問診票

氏名：_____

当てはまる方に○をつけてください。

吃音に初めて気づいたのはいつですか？		歳 カ月
急に（１～３日）発症しましたか？徐々に（１週間以上）発症しましたか？		急に 徐々に
親戚や家族に吃音のある人がいますか？		はい いいえ
思い当たる吃音の原因がある（具体的に：_____）		はい いいえ
子どものことばがつっかえていると、責められる感じがする		はい いいえ
子どもが親の前で苦しそうに話した経験は、将来覚えていると思う。		はい いいえ
子 ど も が	話し方を気にする（例：「口がうまく動かない」、「つっかえる」、「もう話せない」、「何か喉が蓋をされる」、と言う）	はい いいえ
	助けを求める（例：「上手に話せない」、「医者に診てもらいたい」、「お薬ちょうだい」）	はい いいえ
	困った表情をする（例：ため息、親の顔を見る）	はい いいえ
	つっかえたら、話すのをやめる。話す場面を回避する	はい いいえ
	我慢ならない様子（例：どもると、「いつもダメだ」と言ったり、頭を動かす）	はい いいえ
発音が間違っていたり、不明瞭で聞き返すことが多い。		はい いいえ
この１週間で、一番長い吃音の時間はどのくらいでしたか？		秒
どもるときに、顔に力が入ったり、手足でタイミングを取ったりする。		はい いいえ
子どもと２人でじっくり話す時間がない（兄弟は本人含めて _____ 人）		はい いいえ
子どもをあまり誉めない。		はい いいえ
子どもが話したことばを、意識して、復唱やわかりやすいことばで言い換えない。		はい いいえ
子どもがことばにつっかえていると、ゆっくり、落ち着いて、深呼吸してなどのアドバイスをする。		はい いいえ
ことばがなかなか出ないので、言いたいことばを先取りして、言っている。		はい いいえ
ことばがつっかえることを、子どもが友達にからかわれている。		はい いいえ
目の前で子どもの吃音の真似を友だちがしていたら、何と声かけますか？ （ _____ ）		
「なぜことばがつまる（繰り返す）の？」と、子どもから質問されたら、どう応えますか？ （ _____ ）		
「最近、調子悪い」と子どもが言ったら、どう声かけしますか？ （ _____ ）		

・来院しようと思ったきっかけは何ですか？

・吃音（どもり）について知っていること（インターネット、本）、また聞きたいことをお書きください。

ご本人への問診票

氏名：_____

当てはまる方に○をつけてください。

来院しようと思ったきっかけは何ですか？		
(_____)		
C	ことばがつかえるのに気づいたのはいつ頃ですか？ どんな場面でした？（具体的に _____ ）	歳
C	相手につかえる（どもる）ことを知られたくない	はい いいえ
C	自分の吃音をコントロールできない	はい いいえ
A	話す直前に、うまく言えるか、つかえる(どもる)か、不安になる	はい いいえ
A	言いにくいことばがあると、言いやすいことばに置き換える	はい いいえ
A	本当は、ことばを置き換えずに話したい	はい いいえ
A	ことばがつかえた後、落ち込んだり、自分を責める。	はい いいえ
A	ことばがつかえた後、そのストレスを吐き出すことができない	はい いいえ
A	相手は悪くない、悪いのは全部自分である	はい いいえ
A	とっさの一言が言えないのが、なによりも困る	はい いいえ
	うつうつとした気分がほとんど毎日続いている。	はい いいえ
A'	何をしても、興味をもって取り組めないし、喜びも感じられない。 そんな気分がほとんど毎日続いている。	はい いいえ
L	苦手なことばがある （具体的に _____ ）	はい いいえ
M'	ひとり言では、すらすらしゃべれることが多い	はい いいえ
M'	歌では、つかえない（どもらない）	はい いいえ
M	話すときに、余計な力が入っている（どこに _____ ）	はい いいえ
S	苦手な場面、場所がある（具体的に _____ ）	はい いいえ
S	苦手な人がいる（具体的に _____ ）	はい いいえ
S	つかえることでからかわれたり、いじめられた経験がある	はい いいえ
S	つかえていたら、「落ち着いて」「ゆっくり話して」と言われる	はい いいえ
S	伝えないといけないことでも、ことばがつかえるから、伝えなかったことがある	はい いいえ
S	ことばがつかえる(どもる)ので、「できない」ことがある	はい いいえ
具体的には？		
例:発表、日直、スピーチ、電話をとられない、予約などの電話をかけられない、散髪、店員さんと話す店には行かない、映画館に行けない		

児童用主張性尺度（Assertiveness Scale for Children: ASC）

学年

名前

Ⅱ. この調査は、あなたが自分をどのように表現しているか調べるものです。

あなたは、それぞれの場面でどのように行動しますか。

1 「はい」 2 「どちらかといえばはい」 3 「どちらかといえばいいえ」 4 「いいえ」

で、適当と思うところの番号に○印をつけてください。

1. あなたは、おもちゃをかしてほしいと言われても、かしたくないときは、ことわれる。	1 2 3 4
2. あなたは、プレゼントをもらったときは、はきはきとおれいと言える。	1 2 3 4
3. あなたは、友だちに遊びに行こうときそわれても、行きたくないときには、ことわれる。	1 2 3 4
4. あなたは、どうしていいかわからないことは、はずかしがらないで、友だちにそうだんする。	1 2 3 4
5. あなたは、友だちが良いことをしたら、いつも「えらいね」とほめてあげる。	1 2 3 4
6. あなたは、友だちがまちがったことを言っているときは、「それはちがうと思います」とはっきり言える。	1 2 3 4
7. あなたは、むずかしくて、自分にできないことは、「できない」と言える。	1 2 3 4
8. あなたは知らない人に道を聞くのは、はずかしくてできない。	1 2 3 4
9. あなたは、買ったおもちゃがこわれていたら、店の人に「別のにかえてください」と言える。	1 2 3 4
10. あなたは、なかよしの友だちから何かたのまれても、正しくないことは、ことわれる。	1 2 3 4
11. あなたは自分の言ったことがまちがいだとわかってても、「ごめんなさい、まちがえちゃった」とすなおに言えない。	1 2 3 4
12. あなたは、むずかしくてわからないことを、先生にしつもんするのは、はずかしくてできない。	1 2 3 4
13. あなたは、とてもたいせつにしていたおもちゃを、友だちにこわされても、その友だちにもんくを言えない。	1 2 3 4
14. あなたは、やりたくないことでも、いじめっ子のたのみは、こわくてことわれない。	1 2 3 4
15. あなたは、先生が言ったことでも、へんだとおもったら、しつもんする。	1 2 3 4
16. あなたは自分が知らないことを聞かれても、「知らない」と言えない。	1 2 3 4
17. あなたは、友だちをほめるのは、てれくさくてできない。	1 2 3 4
18. あなたは、買い物をして、おつりが少ないことに気づいても、店の人に「おつりがたりません」と言えない。	1 2 3 4
合計	

日本語版Checklist for Possible Cluttering ver.1 (JCPC ver.1)

	当てはま らない	←	→	よく当て はまる
1. 力の入らない音節、単語、句の繰り返しがあ	0	1	2	3
2. 始語が遅く、言葉の発達に遅れが見られた	0	1	2	3
3. 非流暢性が生じたのが話し言葉が十分に発達してからではなく、比較的早期であり、それが現在まで続いている。	0	1	2	3
4. 次の言葉を想起するのに混乱しており、そのために発話内の語順等の構造が乱れ、言い直したりする。	0	1	2	3
5. 「えっと」、「あのー」、「だからねー」、「うーんと」などの言葉、「あー」、「うー」などの挿入あるいは間を多く用いて次に言う言葉を考える様子がある。	0	1	2	3
6. 最初の言葉を発する時に、次の言葉を想起できるまで、構音の構えをしてまま止まっている時がある。吃音のブロック(阻止)とは異なる症状で緊張が見られない。	0	1	2	3
7. 発話速度が速い	0	1	2	3
8. 外向的な子供で、発話意欲が高く、衝動的なおしゃべりをする。	0	1	2	3
9. 話している際に、息つきによって区切る箇所が不自然である。	0	1	2	3
10. 構音が不明瞭で、その音が構音出来ないわけではないが、時々省略や置換が見られる。	0	1	2	3
11. 構音に幼児音が残	0	1	2	3
12. 集中させれば、より上手に話することができるが、長続きしない。	0	1	2	3
13. 他人の指示に従うことが苦手で、忍耐に欠け、人の話をよく聞かない。	0	1	2	3
14. 注意散漫で、集中力が乏しい。	0	1	2	3
15. 連続的な事柄を順序立てて話することが難しい。	0	1	2	3
16. 健忘症の失名詞に似た症状で、語想起に問題が見られる。	0	1	2	3
17. 「それが」、「あっちの」、「ここが」などの代名詞を不適切な箇所で頻回に使う。	0	1	2	3
18. 文法、構文が未熟で、言語構造に誤りが含まれる。	0	1	2	3
19. 運動的な不器用さや協調性の乏しさが見られる。	0	1	2	3
20. 読みの問題がある。	0	1	2	3
21. 読みづらい文字、ばらばらになってまとまりのない文字を書く。	0	1	2	3
22. 書き言葉にも、話し言葉と同様な誤りが見られ、音節の省略や置換が見られる。	0	1	2	3
23. 利き手の確立が遅れ、左右の認識に混乱している。	0	1	2	3
24. 長い文になると、始めは大きな声で言い、最後の方はモゾモゾと言って消え行くような話し方になる。	0	1	2	3
25. 話したり書いたりするよりは、速く考えているように見える。	0	1	2	3
26. 抽象的なことを推論する能力は高く、算数は平均以上に良くできる。	0	1	2	3
27. リズム感はなく、音痴であり、音楽能力は低い。	0	1	2	3
28. イントネーションが不適切であり、プロソディーが単調である。	0	1	2	3
29. 実年齢よりも幼く、体が小さいあるいは成長が遅い。	0	1	2	3
30. 家族に同様の問題(吃音、構音障害など)を持つものが存在する。	0	1	2	3
31. だらしない、注意が足りない、短期、衝動的、忘れっぽい性格である。	0	1	2	3
32. 我慢が出来ない、集中しておらず表面的な態度、あるいは癇癪を起こしやすい(キレやすい)性格である。	0	1	2	3
33. 自分の行動や反応の不適切さに気づきにくく、無関心であり、自己意識が欠如している。	0	1	2	3
合計				

LSAS-J 問診票

年 月 日

氏名:

この1週間にあなたが感じた様子に最もよく当てはまる番号を、項目ごと1つだけ選んで記入してください。

項目をとばしたりせずに全部埋めてください

	恐怖/不安感	回避
	0: まったく感じない 1: 少しは感じる 2: はっきりと感じる 3: 非常に強く感じる	0: まったく回避しない 1: 回避する(1/3以下の確率) 2: 回避する(1/2程度の確率) 3: 回避する(2/3以上～100%)
1 人前で電話をかける(P)	0 1 2 3	0 1 2 3
2 少人数のグループ活動に参加する(P)	0 1 2 3	0 1 2 3
3 公共の場所で食事をする(P)	0 1 2 3	0 1 2 3
4 人と一緒に公共の場所でお酒(飲み物)を飲む(P)	0 1 2 3	0 1 2 3
5 権威のある人と話をする(S)	0 1 2 3	0 1 2 3
6 観衆の前で何か行為をする(P)	0 1 2 3	0 1 2 3
7 パーティに行く(S)	0 1 2 3	0 1 2 3
8 人に見られながら仕事(勉強)する(S)	0 1 2 3	0 1 2 3
9 人に見られながら字を書く(P)	0 1 2 3	0 1 2 3
10 あまりよく知らない人に電話をする(S)	0 1 2 3	0 1 2 3
11 あまりよく知らない人達と話し合う(S)	0 1 2 3	0 1 2 3
12 まったくの初対面の人と会う(S)	0 1 2 3	0 1 2 3
13 公衆トイレで用を足す(P)	0 1 2 3	0 1 2 3
14 他の人達が着席している部屋に入っていく(P)	0 1 2 3	0 1 2 3
15 人々の注目を浴びる(S)	0 1 2 3	0 1 2 3
16 会議で意見を言う(P)	0 1 2 3	0 1 2 3
17 試験を受ける(P)	0 1 2 3	0 1 2 3
18 あまりよく知らない人に不賛成と言う(S)	0 1 2 3	0 1 2 3
19 あまりよく知らない人と目を合わせる(S)	0 1 2 3	0 1 2 3
20 仲間の前で報告する(P)	0 1 2 3	0 1 2 3
21 誰かを誘おうとする(P)	0 1 2 3	0 1 2 3
22 店に品物を返品する(S)	0 1 2 3	0 1 2 3
23 パーティを主催する(幹事になる)(S)	0 1 2 3	0 1 2 3
24 強引なセールスマンの誘いに抵抗する(S)	0 1 2 3	0 1 2 3

P: performance(行為状況)、S: social interaction(社交状況)